

した。会長様、五十嵐様、安田様、早川様、小林繁様、洸岡様、佐野様（三条ロータリー）様、以上7名様からです。

卓 話： 本間茂男会員を偲んで 今井克義会員



本間会員の卓話がありましたのでそれを掲載させていただきます。

「きものに理解を」ということで話をさせてもらいます。昭和46年に昭栄通り商店街に「きものサロンほんま」の名で呉服専門店を出店した頃は高度成長時代だったこともあって、店も高い評価をいただいたものですが、現在は不景気にさらされて大変苦勞させられています。洋服が日常着である現代では構造的な不況業種の一種であろうかと思えます。日常着としてのきものはもっと減少するでしょうが、晴れ着の分野では依然女性の関心は高いものがあります。それは伝統的なきものというものが女性の優しさを最も美しく表現してくれるのだと、彼女達自身が知っているからであります。このことを男性の皆さんから知っていただきたいので次のことを想像してもらいたいと思います。皆さんがお座敷にいて、おいしい料理とお酒が皆さんの前に用意されていて、きもの姿の奥様が皆さんの左側にお酌をするために座っているところを想像してください。そしてお酌をする時の仕草を考えてください。奥様はお銚子を左手で持ち、右手の指を添えて杯に注ぎます。その仕草は女の人の身体がちょうど「く」の字形になって、とってもやさしい風情があります。いかがでしょう。きもの姿のやさしい女性の美しさをご想像いただけたのではないのでしょうか。晴れ着としてのきものは女性でも、男性でも緊張感を高めるために大いに役立ちます。そしてそこに伝統的な格調高いきもの姿を見ることができます。一方では、まったく反対のくつろぎ着としてのきものの楽しみ方もあります。夏のゆかたでありますし、温泉の旅館で着るきものであります。くつろぐ時の男の着物は、きもので体を包むだけでそしてその上に帯を一本ぐるぐるまきつければすむものであり、ゆったりとリラックスして着れば心を解きほぐすきものになるのです。きものをもっともっと着ていただきたいと思えますし、着ながら1日づつきものの良さを、美しさを皆様から見つけていただきたいと思っております。私の願いであります。

布川さんを偲んで 馬場直次郎会員

今日は4年前に突然の病で帰らぬ人となってしまった「布川和男」さんの人柄と、そしてエピソードについてお話をしてみたいと思います。

私と布川さんとの出会いは、ロータリーで会ったのがきっかけで、その後、北鼓隊での付き合いの中で友情が育まれていったのだと思われ、それまでは互いに近くに住んでいても全く知らない存在だったのです。布川さんがロータリーに入会をした時には何か恐ろしいような人が入ってきたなあ・・・と、いう感想でした。風貌といい、ドスのきい声といい、そして黒のダブル、そして肩をゆずって歩く姿はなかなか堂にいったものでした、ある飲み会の時、本人に、なんでなのかな



・・・・・・と、聞いた事があったんです、「馬鹿いえっや、俺ら、ガキの頃から喧嘩ひとつした事なんかねえいや、こう見えても気が小ちゃいんだれや、」教訓、その・・・・・・「人は見かけによらぬもの」

何、何と！布川さんは、石原裕次郎の大ファンだったのです、裕ちゃんの出演してる映画という映画すべて見た、そしてレコードも全て持っている、と、豪語しておりました、裕次郎の映画ばかりでなく、任侠もの、そして、ヤクザものの映画も大好き少年だったせいか、映画館から出てくる時は、スター気取りになっちゃって、つつい肩をゆすり、両ポケットに手を入れて歩く癖、が出来てしまったんだ、と、話をしていました、若い時の搾り込み現象なのでしょうか、・・・・ずっと、青春をひきずっていたんですね、／／／／

加茂農を卒業すると、東京にいるおじさんを頼って上京、そのおじさんは当時、4大ミシンメーカーのつであったリッカーミシンの偉いさんをやっており、その伝でリッカーミシンに入社、東京の下町を地盤に必死にセールスをして歩いたのだそうです、当時、ミシンはたいそう高価なもので、月掛けというシステムで若い娘達にアタックをしていったのだそうです、若い女性を相手、と、いうことで、時には思わぬ「おこぼれ」を頂戴する事もあったように聞きました、全く羨ましいお話ですね・・・・・・で、その頃、オネエサン達から大人にしてもらったんだとか、まさしく、棚からボタ餅、というところですね。

皆さんにとっては、多分初耳の事だろうと思いますが、実は、布川さんは、テーチクからレコードを出しているのです、何度も聞いたことがあります、裕次郎ばりの低音の素晴らしい唄なのです、曲名は忘れてしまったが、・・・・ひょっとすると、不動産ではなく今頃は歌手になっていたかもしれません、人生って不思議なもんですね、／

今頃は、没後4周年を記念して、あの世で記念リサイタルを開いているかも知れませんが、親友だからといって、招待状が送られてきても、欠席をするつもりです。

奇しくも、今日は、本人の祥月祥日にあたります、こんな日に布川さんの思い出話ができるなんて、これも何かの因縁なんだなと思います、と、いう事で、今晩は布川さんの思い出話をしてみました。「合掌」

会員の声： 子供が描いた元気で明るい絵画を大募集中、／ 西山 斉

「ばくの、わたしの大好きなひと、まち、もの」をテーマに三条市、燕市、白根市、栄町、吉田町、分水町、寺泊町、下田村、中之口村にお住まいの園児、小学生を対象として元気で明るい絵画を募集しています。募集期間は5月1日から31日の間です。四つ切画用紙大、クレヨン、水彩画等、作品裏等にご連絡先を記入してください。応募方法は、日の丸観光タクシー宛（東三条1-6-14）持参又は郵送でお願い申し上げます。入選者6名様に各5千円図書券を進呈。応募条件とし